

令和5年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

常に前向きな姿勢で未来に夢や希望をもち、

- 自他ともにかげがえのない存在であることを自覚し、感謝の心・思いやりの心を育み、礼儀をわきまえ「人」としての心を大切にする学校。
- 自主的に考え判断し、決断したことは積極的かつ誠実に実行する、その結果について責任をもち、失敗を恐れず努力し続ける生徒を育てる学校。
- 生涯を通じて健康・安全で活力ある生活を送るための基礎を培い、社会の構成員としてともに生きる心を養うべく社会奉仕の精神の涵養を育む学校。

2 中期的目標

1 確かな学力の育成と進路実現

(1) 学習指導要領を踏まえた創意工夫にもとづく教育活動の充実を図る。

- ア 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善に取り組む。
- イ 「観点別学習評価」による【計画⇒実践（指導）⇒評価⇒改善】により摂津高校の学びに応じた評価の『信頼性・妥当性』を高める。
- ウ 1人1台端末をはじめとするICTを効果的に取り入れ、一斉指導、個別学習及び協働学習を組み合わせる等により学びの深化を図る。
- エ 生涯にわたって探究を深める未来の創り手として「SDGs」を取り入れた探究活動を推進する。
- オ 「成年年齢18歳引き下げ」に伴い、生徒一人ひとりに社会で求められる資質・能力を育成する。

(2) 自主性・自立性を育成するキャリア教育の推進

- ア 3年間を見通した進路ガイダンス機能の充実を図る。
- イ 生徒の進路希望に応じたきめ細かな情報提供をおこなう。
- ウ 進路実現のための講習支援体制の充実（3年）を図る。
- エ 長期休業中等における質の高い集中講座を計画的・継続的に実施（1.2年）する。
※難関私立大学合格者数（R02：47人/345人、R03：93人/299人、R04：95人/303人）前年度率を上回る。
※学校教育自己診断「学校の進路指導は、進路選択・進路実現に役立っている」肯定的回答率（生徒：R02：88%、R03：83.4%、R04：83.7%）⇒80%以上を維持、（保護者：R02：80%、R03：75.2%、R04：80.0%）⇒80%以上を維持

2 豊かな心、たくましい人間性の涵養と安全安心な魅力ある学校づくり

(1) 規範意識の醸成を図り規律ある安全安心な教育環境を確保する。

- ア あいさつ、時間厳守、身だしなみ等規範意識の醸成を図る。
- イ 交通安全マナーの向上を図る。
※遅刻総数の減少（R02：873回、R03：725回、R04：856回）⇒前年度減

(2) 安全で安心な学校生活の推進

- ア 人権尊重の教育の推進により生命や自他ともに大切にする心を育て人権侵害を許さない学校体制を確立する。
- イ 個々の生徒に寄り添ったきめ細かな支援による教育相談体制の充実を図る。
- ウ 防災・防犯、感染症等に対する対応を含む取組みの推進を図る。

(3) 生徒の自主的活動の支援及び生徒の可能性を伸ばす教育の実践

- ア 「新しい生活様式」を取り入れた柔軟な学校行事・生徒会活動の充実を図る。
- イ 活発な部活動を通して人間力の向上をめざす。
- ウ 校内の環境整備及び設備等を充実することにより生徒の学習活動を活性化させる。

3 体育科設置校として、体育・スポーツ教育の推進をめざす。

(1) 体育科専門の授業を通して、トップアスリート・競技指導者等生涯を通してスポーツに関わる人材を育成する。

- ア 競技力の向上及び指導力の育成に積極的に取り組む。
- イ 体育の見方・考え方を働かせ、「する・見る・支える・知る」などのスポーツの多様な関わり方を自ら実践できる資質・能力を身に付ける。
- ウ スポーツ経験を生かし、生涯を通してスポーツの意義や価値を広めたり向上させたりすることができる人材を育成する。

(2) スポーツ拠点校として、地域スポーツの推進及び発展に寄与する。

- ア スポーツを通じて地域交流を積極的に行い地域貢献に努める。

4 学校力の向上

(1) 学校・家庭・地域とのより一層の信頼関係の構築

(2) 「学び続ける」教職員の組織的・継続的な育成

(3) 業務の工夫、効率化により超過勤務時間縮減と生徒と向き合う時間の拡充

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和 年 月実施分]	学校運営協議会からの意見

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R4年度値]	自己評価
1 確かな学力の育成と進路実現	(1) 創意工夫にもとづく教育活動の充実	ア 「主体的・対話的で深い学び」の実現をめざす。 ・「観点別学習状況の評価」の計画・実践(指導)・評価・改善の一連の活動を授業改善委員会を中心に信頼性と妥当性を高めより適切に進めていく。 イ ・指導教諭を中心に、職員会議ごとに各教科からの実践発表を行い、学期に1回公開授業を行う。	ア ・学校教育自己診断(生徒)「授業で自分の意見をまとめたり発表する機会」85%以上を維持する【91.0%】 ・学校教育自己診断(教職員)「各教科において教材の工夫や評価の在り方について話し合う機会がある」85%以上を維持する。【86.0%】 イ ・定期的な研修の実施回数(前年度以上)【6回】 ・公開授業3回	
	(2) ICTの効果的活用	ア ・学習クラウドサービスを中心としたグループウェア各種ツールの活用率の一層の向上を図る。	ア ・学校教育自己診断(生徒)「学校は1人1台端末を効果的に活用している」90%を維持する【92.2%】 ・情報活用診断評価独自アンケート(生徒)〈4・12月実施予定〉において、項目「スライドの作成・発表」において0.5ポイント、「情報収集」において0.2ポイント、1回めより2回めの数値をあげる(4点満点)。また、総得点(24項目×4点)1回めより2回めの数値を10ポイント以上あげる。【新】	
	(3) キャリア教育の推進	ア ガイダンス、進路講演会を組織的・計画的に実施する。特に、1,2年生徒向けのガイダンス、進路講演会等を増やし、早くから進学意識を持たせ進路実現につなげる。 イ 進路指導部が中心となり、進学希望対象(3年)の集中講座の継続実施により最後まで挑戦する生徒を育成する。特に難関大学、国公立大学を希望する生徒には個別講習を実施する。 ウ 夏期集中講座(1・2年:複数日)の計画的実施により進路実現に対する意識の向上を図る。	アイウ・学校教育自己診断(生徒・保護者)「学校の進路指導は進路選択・進路実現に役立っている」肯定的回答率生徒・保護者ともに80%以上【生徒83.7%、保護者80.0%】 ア ガイダンス、進路講演会を1年生生徒向け3回以上【2回】、2年生生徒向け6回以上【5回】に増やし、早くから進学意識を持たせ進路実現につなげる。 イ ・難関私立大学合格者数を、前年度と同レベルに維持する。【95人/303人】 ウ 事後アンケート「生徒満足度」数値90%以上を維持する。【96.5%】	
2 人間性の涵養と安全安心な学校づくり	(1) すべての教育活動を通じて、規範意識の醸成、自らを律し他人を思いやる心を育てる	ア 時間遵守、身だしなみ等、規範意識の醸成を図る。担任団を中心に、早めに保護者と連携した指導をおこなう。特に常習者については他の理由等がないかも含め丁寧に聞き取り指導する。 イ 学校生活全般を通して必要なモラル、マナー向上のための啓発活動を集会やLHR時に積極的かつ継続的におこない、社会人としての素養を身に付ける。 ウ 交通安全指導の取組み ・外部講師による「交通安全指導」の開催等年に2回の「交通安全指導週間」を設け、登校時における自転車マナー順守の注意喚起を行い自転車事故の被害者・加害者にならないよう計画的な指導を行う。	ア 遅刻数を前年度減にする。【856回】 アイ 学校教育自己診断(生徒)「学校内外で規律を守り、モラルある行動をとっている」肯定的意見90%以上を維持する。【98.5%】 ウ ・登下校時の自転車による事故件数を0(ゼロ)にする。【13件】【新】 ・地域の学校・青少年指導員等で構成する「青少年対策連絡会」や近隣地域での意見聴取	
	(2) 安全で安心な学校生活	ア 人権教育学習の充実 ・外部講師を招き人権LHRを行い、より身近な問題であることを気づかせ意識させる。 イ 情報リテラシーの育成	ア ・学校教育自己診断(生徒)「個の違いを認め合う人権を尊重する態度を身に付けるように取り組んでいる」95%以上を維持する。【96.7%】 イ ・情報モラル授業後のアンケート「多様な価値観や受	

	(3) 自主的活動の支援	<ul style="list-style-type: none"> 情報モラルについて「情報」の授業をはじめ、行事前後等定期的に情報発信し【人よりの受け止め方の違い】や【多様な価値観】等に気づかせ情報社会における正しい判断、望ましい態度の育成を図る。 <p>ウ 教職員対象の救急講習会全員参加</p> <ul style="list-style-type: none"> 教職員全員が心肺蘇生法を身に付けいつでも実践できるよう準備する。 <p>ア 柔軟な学校行事と生徒会活動の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒会が学校紹介ムービーを作成し、日々の学校生活を学校 HP・説明会等広く情報発信し広報活動につなげる。 <p>イ 図書室の活用促進</p> <ul style="list-style-type: none"> 課題発見・解決の能力の基礎を身に付けることに加え、創造力や表現力を豊かにするため教科指導・総合探究・調べ学習に積極的に活用する。 摂津市の図書関係者及び市内の小・中学校の図書担当との意見交換を行い更なる学校図書館の充実を図る。 	<p>け止め方を想定し適切に考え行動するという思いにつながった」肯定的意見 90%以上を維持する。【93.3%】</p> <p>ウ ・教職員の救急講習会参加 100%を維持する。【100%】</p> <p>ア ・学校教育自己診断（生徒）「学校の行事に積極的に取り組んでいる」肯定的意見 90%以上を維持する。【95.6%】</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒会活動として学校紹介ムービーを作成し外部へ摂津高校の良さをアピールできたか。【新】 <p>イ ・図書室の活用頻度（教科・総合探究・調べ学習・グループ学習・委員会活動など）昨年度以上【35回】</p> <ul style="list-style-type: none"> 摂津市及び近隣学校との交流が図れたか。【新】 	
3 体育・スポーツ教育の推進	<p>(1) 体育科専門の授業を通しての人材育成</p> <p>(2) スポーツ拠点校として地域スポーツの推進を図る。</p>	<p>ア ・「スーパーインストラクター招へい事業」の活用により、トップのアスリートやコーチによる講演等を計画的に実施し、生徒のモチベーション及びスキルの向上につなげる。</p> <p>イ ・大学関係者による講義等を実施しスポーツの多様な関わり方を多方面から学ぶ機会をつくる。</p> <p>ア ・近隣学校等の体育的行事に参画し企画・運営等を行い、指導力の育成を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> 中学校の部活動を積極的に支援する。 スポーツ拠点校として、近隣中学校運動部を招き『SETTSU CUP』を開催し、本校体育科の教育活動の魅力の発信、地域スポーツの推進・発展に努める。 	<p>ア ・サッカー、ラグビー女子バレーボール、男女バスケットボール、水泳、陸上の部活動の前年度以上の成績をめざす。</p> <p>アイ・体育科独自アンケート（生徒）「スポーツへの多様な関わり方の興味・関心が高まった」肯定意見 80%以上をめざす。【新】</p> <p>イ ・授業等、大学教授による高大連携事業の継続が昨年度に続き行なえたか。</p> <p>ア ・近隣学校等の体育的行事参加者の「満足感が得られたかどうか」肯定的意見 80%以上【新】</p> <ul style="list-style-type: none"> 部活動支援した中学校の部活動数延べ 80 部以上を維持する【107 部】 『SETTSU CUP』の開催部活動を3運動部以上を維持する【3運動部】 	
4 学校力の向上	<p>(1) 学校・地域中学校との連携</p> <p>(2) 教職員の組織的・継続的な育成を図る。</p> <p>(3) 長時間労働の削減</p>	<p>ア 中学校訪問、学校説明会及び出前授業等の更なる改善を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> 本校の魅力を積極的に発信し丁寧な情報提供等を行うなど一層の充実を図る。 <p>ア 人権教育/教育相談</p> <ul style="list-style-type: none"> 研修等を通して日常の生徒の言動にいち早く【気づき】ができるよう教職員のアンテナを常に高くして生徒対応ができるようにする。 教職員がそれぞれカウンセリングマインドをもって個に応じた適切な指導ができるよう外部指導者を招くなど生徒の支援体制の一層の充実を図る。 <p>ア ・全校一斉定時退庁日とノークラブデーの遵守・徹底</p> <p>イ ・学年、教科等での教材等の共有化。</p>	<p>ア ・近隣中学校への出張学校説明会等の実施や学校説明会の新たな取り組みができたか。【新】</p> <p>ア ・学校教育自己診断（教員）「人権尊重に関する様々な課題等、教職員が話し合う機会がある」肯定的意見 80%以上【65.5%】</p> <ul style="list-style-type: none"> 教育活動全般において、「体罰や各ハラスメントの防止をはじめ、人権尊重の姿勢にもとづいた指導が行われている」肯定的意見 80%以上を維持する。【85.7%】 学校教育自己診断（教員）「生徒が相談しやすい環境をつくるよう努めている」肯定的意見 85%以上を維持する【89.5%】 <p>ア ・全校一斉定時退庁日に生徒及び教職員が遵守できたか。【新】</p> <p>イ ・教科間での教材の共有化ができていますか。【新】</p>	